

# NO.2 「おとずれ山の会」だより

森づくりを楽しみながら自然との共生と環境保全を考える

## 4 本の山桜が“出現”

### 下刈り・除伐進む

おとずれ山の刈り払いや除伐の作業が着実に進み、ようやく全体の様子が見えるようになってきました。植えられたのは戦後でしょうか、東南斜面に並ぶこの山桜、周辺を切り開いてみると改めてその存在を感じます。蔓や蔦をまとめて枝を広げる様は、時代を闘ってきた古武士が現代に現れたという風情です。



来年の春はどんな花をつけるでしょうか、楽しみです。

そうと同会が作業してきたもの。その結果、希少な動植物を含む多様な生物が見られるようになったのですが、一方ではニホンジカの渡るところとなり、鹿との共生を考える必要が生じた

のでした。



この日は、ニホンジカの棲息の観察・調査を行い、竹林保護のためのネット敷設などの作業をしました。

島に渡るつり橋の途中から（右手が島、中央は中州）

## 定年後のボランティア活動

### 9月12日日経新聞が取材

おとずれ山の会が日本経済新聞（編集局科学技術部）の取材を受けました。ちば里山センター（伊藤事務局長）を通じて要請があったもの。こんな活動に情報価値があるのかなーと訝しみつつも、ちょっと緊張しました。記事は10月2日夕刊に掲載されましたが、カラーでしかもずいぶん大きな扱いになっていて、気恥ずかしくまた恐れ多いように思ったことでした。記者の福岡さん、そして取材に協力して下さった会員の皆さん、お疲れさまそして有難うございました。

.....

### 里山ひとくちメモ

ものの本（たとえば「森林の力」：矢部三雄著 講談社+α新書 '02年）によると、1haの森林は、年間10トン～20トンの酸素を供給し、40人～80人の必要を賄うのだそうです。幅があるのは生育状態によって異なるからで、生き生きした豊かな森づくりが大切な所以ですが、この計算でゆくと、おとずれ山はざっと100人～200人の命を支えていることになります。私たちの作業、少しは役に立っているということでしょうか。

## 基本動作を確認

### 6月12日「刈り払い機」講習会開催

おとずれ山を会場とした技術講習会に9名の会員を中心に13名が受講しました。人数をまとめて会場を提供することにより、運営はちば里山センターが受け持つものです。



↑刈り払い機実習（手前は永峰さん）



講師は林業サービスセンター木村講師。あいにくの天気でしたが、女性の皆さんはじめ皆さん熱心に勉強しました。

←チェーンソーにも挑戦（伊藤さん）

## ニホンシカとの共生と森づくり

### 豊英湖中島で観察・作業

9月15日、ちば千年の森をつくる会主催の観察会が行われ、高橋（和）が参加しました。君津市の豊英湖（とよふさこ）に浮かぶ豊英島。繁茂するマダケを整理し、豊かな植生を取り戻

〒290-0255 市原市光風台 4-280  
 発行：おとずれ山の会代表 高橋順子  
 編集：監事（世話役）高橋和靖  
 TEL：0436-36-3773 Email：kjtaka@kba.biglobe.ne.jp

